

(様式4-1) 社会資本総合整備計画 事後評価書

1. 整備計画											
計画の名称 ③ 静岡県における力強い産地づくりに向けた漁港整備と環境整備の推進（第2期）											
計画の期間 平成27年度 ～ 令和元年度				交付対象 静岡県、熱海市、下田市、南伊豆町、吉田町、磐田市							
計画の目標											
安全で効率的な水揚げ作業や漁港施設の機能確保、漁港交流人口の増加、集落環境の保全を目指し、力強い産地づくりに向けた漁港整備を推進する。											
計画の成果目標（定量的指標）											
<ul style="list-style-type: none"> <li>緑地・交流広場、集落道の整備により漁港来訪者を年間7.4万人増加させる。（来訪者数：59.8万人（H26）→67.2万人（R元年度末））</li> <li>既存漁港施設の機能を保つため、護岸等施設の長寿命化済み延長を63m施工する。</li> <li>漁業集落の良好な環境を保つため、漁業集落排水施設を、（i）2地区で長寿命化対策工事を実施する。（ii）3地区で長寿命化計画を作成する。</li> </ul>											
定量的指標の定義及び算定式						定量的指標の現況値及び目標値			備考		
① 緑地・交流広場、集落道の整備により漁港来訪者を年間7.4万人増加させる。						当初現況値		中間目標値	最終目標値	焼津地区、初島地区、吉田地区、福田地区	
						(H26末)		(H 末)	(R元末)		
② 既存漁港施設の機能を保つため、護岸等の長寿命化済み延長を63m施工する。						-		-	63m	榛南地区	
						(59.8万人)		(H 末)	(R元末)		
③ 良好な集落環境整備のため、（i）2地区について漁業集落排水施設の長寿命化対策を実施する。（ii）3地区について漁業集落排水施設の長寿命化計画を策定する。						-		-	(i)2地区で実施 (ii)初島地区、妻良地区	(i)田牛地区、子浦地区 (ii)初島地区、妻良地区、中木地区	
						(59.8万人)		(H 末)	(R元末)		
全体事業費		合計 (A+B+C)	2,418 百万円	A	2,418 百万円	B	C	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)			
事業種別		要素となる事業名 (事業箇所)			事業内容 (延長・面積等)			市町名		全体事業費 (百万円)	備考
漁港		地域水産物供給基盤整備事業 (初島地区)			護岸整備L=100m			熱海市 (初島漁港)		171	
事業数		漁港環境整備事業 (焼津地区)			緑地整備L=1式			焼津市 (焼津漁港)		83	
10		漁業集落環境整備事業 (子浦地区)			施設改築N=1式			南伊豆町 (妻良漁港)		111	
2. 事業の進捗状況 (○：計画期間中に完成 △：計画期間終了後に完成見込 -：その他 (備考欄に具体的に記入 (中止、未実施等)) (計画期間中に他の整備計画に移行したもので、●：本計画の期間中に完成 ▲：本計画の期間終了後に完成見込)											
計画の移行なし		○	8	△	2	-	0	備考		計画の移行あり ● ▲	
3. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況											
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況											
福田漁港及び初島漁港については、本計画における施設整備に加え、別途事業による、飲食施設及び旅客ターミナルの施設整備も完了したことから、来訪者の利便性が更に向上し来訪者数の増加につながった。											
II 定量的指標の達成状況											
指標① (焼津漁港、初島漁港及び福田漁港の来訪者数)		最終目標値	7.4万人増		目標値と実績値に差が出た要因	福田漁港については、別途事業で整備した飲食施設の利用者数の伸び率及び当計画によるアクセス道路整備に伴う利便性向上がもたらす増加率を見込み目標値の設定をしていたが、見込み以上の利用者増があり目標値を上回ることができた。					
		最終実績値	11.7万人増								
指標② (護岸等長寿命化済み延長)		最終目標値	63m		目標値と実績値に差が出た要因						
		最終実績値	63m								
指標③ (漁業集落排水施設の長寿命化対策)		最終目標値	(i)2地区で工事実施 (iii)3地区で計画策定			目標値と実績値に差が出た要因					
		最終実績値	(i)2地区で工事実施 (iii)3地区で計画策定								
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況											
初島漁港 避難路になるため、来訪者の利便性と併せ安全性が向上している。											
4. 今後の方針等											
計画期間内に完了しなかった吉田漁港環境整備事業等については、防災拠点として活用される交流広場の緑地整備の進捗を進め、令和5年度の完了を目指す。											

(1) 事業の目的

【漁港整備課】

安全で効率的な水揚げ作業や漁港施設の機能確保、漁港交流人口の増加及び集落環境の保全を目指し、力強い産地づくりに向けた漁港施設等の整備を推進する。

(2) 指標：緑地・交流広場、集落道の整備による漁港来訪者の増加

漁港における緑地や交流広場、集落道の整備など、漁港及び漁村の環境の向上に併せ、防災対策に資する漁港環境事業及び漁業集落環境整備事業の事業箇所を対象とした。

指標の達成状況

令和元年度末の最終実績値は11.7万人増であり、目標（7.4万人増）を達成した。整備した施設は、防災広場や避難路として地震や津波発生時の安心安全の向上に寄与している。

計画の成果目標	定量的指標			
	H26末	R1末最終目標	R1末最終実績	R1末達成率
事業箇所の焼津漁港、初島漁港及び福田漁港の来訪者数※	— (来訪客数:59.8万人)	7.4万人増 (来訪客数:67.2万人)	11.7万人増 (来訪客数:71.5万人)	158%

※ 焼津漁港のみイベント開催時の動員人数を指標とする

(3) 指標に関連する実施事例



(4) 定量指標以外の効果発現状況

初島漁港では旅客船ターミナルが荒天時の安全な待合所として、また福田漁港では新設した漁港へのアクセス道路が地震発生時に避難路になるため、来訪者の利便性と併せ安全性が向上している。

(5) 今後の方針と目標達成見込み

計画期間内に完了しなかった吉田漁港環境整備事業等については、防災拠点として活用される交流広場の緑地整備を進め、令和5年度の完了を目指す。